

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	子どもの安全管理		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの安全管理		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	写真で学ぶ 保育現場のリスクマネジメント		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	実践的な傷害予防を身につける。				
到達目標	子どもの事故予防として、効果のない方法と効果のある方法の違いを知る。 どのようにすれば事故を予防できるのかを具体的に考え、行うことができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	金子 希奈	実務経験		○	
実務内容	幼稚園にて幼稚園教諭として4年、保育所にて保育士として2年勤務をした実務経験を基に、子どもの安全管理について教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章 リスクマネジメントって何？	保育とリスクの関係
2	第1章 リスクマネジメントって何？	リスクって何だろう？
3	第1章 リスクマネジメントって何？	リスクと向き合おう 園のリスクマネジメント
4	第1章 リスクマネジメントって何？	リスクマネジメントのポイント ワーク (①遊具・物 ②日常の風景)
5	第1章 リスクマネジメントって何？	リスクの予防 ①人から考える
6	第1章 リスクマネジメントって何？	リスクの予防 ②物から考える
7	第1章 リスクマネジメントって何？	保育者の役割
8	第2章 場面別 リスクの予防と対策	開園準備 登園
9	第2章 場面別 リスクの予防と対策	園児の受け入れ 保育環境の準備
10	第2章 場面別 リスクの予防と対策	異年齢保育 ワーク (③横断歩道)
11	第2章 場面別 リスクの予防と対策	全体保育 職員間の申し送り
12	第2章 場面別 リスクの予防と対策	屋外から室内への移動 園内での移動
13	第2章 場面別 リスクの予防と対策	ワーク (④総合遊具)

14	第2章 場面別 リスクの予防と対策	活動の種類による対応① 室内での設定保育（制作活動） 活動の種類による対応② 室内での設定保育（遊び）
15	第2章 場面別 リスクの予防と対策	活動の種類による対応③ 設定保育（園庭での活動）
16	第2章 場面別 リスクの予防と対策	散歩・移動
17	第2章 場面別 リスクの予防と対策	公園
18	第2章 場面別 リスクの予防と対策	トイレ・手洗い場
19	第2章 場面別 リスクの予防と対策	昼食
20	第2章 場面別 リスクの予防と対策	歯みがき
21	第2章 場面別 リスクの予防と対策	午睡
22	第2章 場面別 リスクの予防と対策	ワーク（⑤給食）
23	第2章 場面別 リスクの予防と対策	おやつ時間
24	第2章 場面別 リスクの予防と対策	降園
25	第2章 場面別 リスクの予防と対策	異年齢保育・延長保育 閉園作業
26	第2章 災害へのリスクマネジメント	災害と園 日常の災害対策 ①対応マニュアルの整備
27	第2章 災害へのリスクマネジメント	日常の災害対策 ②避難訓練 ③保育環境の整備
28	第2章 災害へのリスクマネジメント	日常の災害対策 ④地域とのかかわり
29	第2章 保護者とともに確保する子どもの安全	保護者の役割とは？
30	第2章 保護者とともに確保する子どもの安全	園の取り組みを家庭・地域に発信する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	子どもの文化		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの文化		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	児童文化が開く豊かな保育実践		出版社	(教育情報出版) 保育出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	児童文化について理解し、保育で生かせる実践力を身につける。				
到達目標	①様々な児童文化財の特徴や役割を理解し、説明できる。 ②保育現場における具体的展開のための技術を習得し、実践ができる。 ③子どもの生活と遊びの環境を工夫し、実践で応用できる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	細貝 八寿代	実務経験		○	
実務内容	幼稚園で幼稚園教諭として21年8ヶ月、保育園で保育士として3年1ヶ月勤務をした実務経験を基に、児童文化の魅力と技法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・評価について
2	児童文化について	児童文化について
3	児童文化とは① 伝承文化・年中行事とは	伝承文化・年中行事について
4	児童文化とは② 春の行事	端午の節句について
5	シアターの基礎知識 シアターを生かした保育とは	シアターの種類 シアターを生かした保育とは
6	春・夏の行事と保育①	春夏の保育にいかせるグッズ製作(パネルシアター、ペープサート、スケッチブックシアター、他)
7	春・夏の行事と保育②	春夏の保育にいかせるグッズ製作(パネルシアター、ペープサート、スケッチブックシアター、他)
8	春・夏の行事と保育③	春夏の保育にいかせるグッズ製作(パネルシアター、ペープサート、スケッチブックシアター、他)
9	春・夏の行事と保育④	春夏の保育にいかせるグッズ製作(パネルシアター、ペープサート、スケッチブックシアター、他)
10	春・夏の行事と保育⑤	春夏の保育にいかせるグッズ製作(パネルシアター、ペープサート、スケッチブックシアター、他)
11	童謡の基礎知識	童謡をいかした保育とは
12	夏の行事	七夕について

13	手遊びの基礎知識	手遊びをいかした保育とは
14	秋の行事	お月見について
15	前期の振り返り	前期の振り返りテスト
16	児童文化施設とは	児童文化施設について
17	絵本・紙芝居の基礎知識①	絵本・紙芝居をいかした保育とは
18	絵本・紙芝居の基礎知識②	紙芝居の実践
19	秋・冬の行事と保育①	秋冬の保育にいかせるグッズ製作(スケッチブックシアター、パネルシアター、ペープサート 他)
20	秋・冬の行事と保育①	秋冬の保育にいかせるグッズ製作(スケッチブックシアター、パネルシアター、ペープサート 他)
21	秋・冬の行事と保育①	秋冬の保育にいかせるグッズ製作(スケッチブックシアター、パネルシアター、ペープサート 他)
22	秋・冬の行事と保育①	秋冬の保育にいかせるグッズ製作(スケッチブックシアター、パネルシアター、ペープサート 他)
23	秋・冬の行事と保育①	秋冬の保育にいかせるグッズ製作(スケッチブックシアター、パネルシアター、ペープサート 他)
24	伝承遊びの基礎	伝承遊びとは
25	伝承遊び①	伝承遊びをいかした保育・実践(わらべ歌)
26	伝承遊び②	伝承遊びをいかした保育(お手玉・あやとり)
27	冬の行事①	正月・節分について
28	冬の行事②	ひな祭りについて
29	後期のまとめ	後期の学び振り返りレポート
30	総まとめ	1年間を振り返り今後の課題について考える

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	プレゼンテーション		
必修選択	選択	(学則表記)	プレゼンテーション		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育士・幼稚園教諭として相応しいプレゼンテーションスキルを理解する。				
到達目標	保育士・幼稚園教諭として相応しい言葉遣いで保護者向けの説明を行うことができる。 実習の学びについてのプレゼンテーションを行うことができる。 自身の所属するコースの学びについてのプレゼンテーションを行うことができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	十川 護	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、成績評価の基準について説明。 プレゼンテーションの必要性を考える。
2	PPTにおけるプレゼンテーション①	PPTにおけるプレゼンテーション手法を理解する。PPTに触れる①
3	PPTにおけるプレゼンテーション②	PPTにおけるプレゼンテーション手法を理解する。PPTに触れる②
4	自己紹介内容の作成①	自己紹介の内容を構成し、資料を作成する①
5	自己紹介内容の作成②	自己紹介の内容を構成し、資料を作成する②
6	自己紹介内容の発表①	クラス内での発表①
7	自己紹介内容の発表②	クラス内での発表②
8	コースの学びのプレゼンテーション作成①	専門コースでの学びをどう活かすかを踏まえたプレゼンテーションを作成する①
9	コースの学びのプレゼンテーション作成②	専門コースでの学びをどう活かすかを踏まえたプレゼンテーションを作成する②
10	コースの学びのプレゼンテーション作成③	専門コースでの学びをどう活かすかを踏まえたプレゼンテーションを作成する③
11	コースの学びのプレゼンテーション作成④	専門コースでの学びをどう活かすかを踏まえたプレゼンテーションを作成する④
12	コースの学び発表会①	コースの学び発表会①

13	コースの学び発表会②	コースの学び発表会②
14	コースの学び発表会④	コースの学び発表会③
15	総まとめ①	前期の振り返りとまとめを行う。
16	現場で使える教材づくり①	生活習慣に関する教材の作成①
17	現場で使える教材づくり②	生活習慣に関する教材の作成②
18	現場で使える教材の発表①	クラス内での発表①
19	現場で使える教材の発表②	クラス内での発表②
20	保育の現代的な課題の調べ学習①	現代の子どもたちを取り巻く環境や保育業界の課題について調べる①
21	保育の現代的な課題の調べ学習②	現代の子どもたちを取り巻く環境や保育業界の課題について調べる②
22	保育の現代的な課題の調べ学習③	現代の子どもたちを取り巻く環境や保育業界の課題について調べる③
23	保育の現代的な課題の発表①	クラス内での発表①
24	保育の現代的な課題の発表②	クラス内での発表②
25	保護者説明会資料作成①	実習園や就職園の特徴、実習の流れ、面接の内容などをまとめた資料を作成する①
26	保護者説明会資料作成②	実習園や就職園の特徴、実習の流れ、面接の内容などをまとめた資料を作成する②
27	保護者説明会資料作成③	実習園や就職園の特徴、実習の流れ、面接の内容などをまとめた資料を作成する③
28	保護者説明会資料の発表①	クラス内での発表①
29	保護者説明会資料の発表②	クラス内での発表②
30	総まとめ②	後期と年間の振り返りとまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	保育製作Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	保育製作Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	3	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	①造形表現を通じて、保育者として子どもたちの感性を培うスキルを身につける。 ②子どもの造形活動を行う上で保育者として必要な造形に関する知識教養を習得する。				
到達目標	①幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、指導計画を立てることができるようになる。 ②造形技法、道具・素材を使って、保育教材を作成し保育に活かすことができるようになる。 ③様々な造形表現の基礎知識・技能をいかし、子どもの表現活動に展開させることができるようになる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	保育製作Ⅰ・保育製作Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	細貝 八寿代	実務経験	○		
実務内容	幼稚園で幼稚園教諭として21年8ヶ月、保育園で保育士として3年1ヶ月勤務をした実務経験を基に、保育者として子どもの感性を培い造形活動を行えるよう教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業「造形表現」の概要及び年間計画提示
2	幼児造形教育の教材①	教材や技法の基礎理解①
3	幼児造形教育の教材②	教材や技法の基礎理解②
4	幼児造形教育の教材③	教材づくり
5	幼児造形教育への実践①	保育教材研究(イメージを豊かにする)
6	幼児造形教育への実践②	イメージを豊かにする保育教材の作成
7	幼児造形教育への実践③	イメージを豊かにする保育教材の作成
8	幼児造形教育への実践④	イメージを豊かにする保育教材の作成
9	幼児造形教育への実践⑤	イメージを豊かにする保育教材の作成
10	幼児造形教育への実践⑥	イメージを豊かにする保育教材の作成
11	幼児造形教育の方法と実践①	保育教材を活用した保育の指導案の作成
12	幼児造形教育の方法と実践②	保育教材を使用した模擬保育

13	幼児造形教育の方法と実践③	保育教材を使用した模擬保育
14	幼児造形教育の方法と実践④	子どもの発達と造形について（造形表現Ⅰ・Ⅱの復習と展開）
15	幼児造形教育の方法と実践⑤	子どもの発達と造形についての学びを保育に活かす（造形表現Ⅰ・Ⅱの展開）
16	幼児造形教育への実践⑥	子どもの発達と造形についての学びを保育に活かす（造形表現Ⅰ・Ⅱの展開）
17	幼児造形教育への実践⑦	季節や行事を感じる造形表現の制作
18	幼児造形教育への実践⑧	季節や行事を感じる造形表現の制作
19	幼児造形教育への実践⑨	季節や行事を感じる造形表現の制作
20	幼児造形教育への実践⑩	季節や行事を感じる造形表現の制作
21	幼児造形教育への実践⑪	季節や行事を感じる造形表現の制作の発表
22	幼児造形教育への実践⑫	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
23	幼児造形教育への実践⑬	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
24	幼児造形教育への実践⑭	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
25	幼児造形教育への実践⑮	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
26	幼児造形教育への実践⑯	色々な材料の造形（素材を活かした表現）
27	幼児造形教育への実践⑰	色々な材料の造形の指導案作成
28	幼児造形教育の方法と実践⑱	色々な材料の造形の模擬保育
29	幼児造形教育の方法と実践⑲	色々な材料の造形の模擬保育
30	まとめ・振り返り	1年間のまとめと振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	音楽表現V		
必修選択	選択	(学則表記)	音楽表現V		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	こどものうた200 続こどものうた200		出版社	チャイルド本社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	弾き歌いを通し、より実践的な技術と表現力を身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・原曲に基づいたアレンジや弾き歌いができる。 ・楽曲の背景や楽譜上の楽語等を理解し表現できる。 				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	音楽表現Ⅰ・音楽表現Ⅱ・音楽表現Ⅲ・音楽表現Ⅳ・音楽表現Ⅵ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	菱山 朝美	実務経験	○		
実務内容	インターナショナルスクール(小学校)音楽専任講師として2年、インターナショナルスクールプリスクールにて音楽講師として2年・保育士として1年、音楽教室ピアノ講師として7年勤務をした実務経験を基に、弾き歌いを通し実践的な技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション あそびうた(1)	授業の流れ、到達目標、評価について あそびうたの弾き歌い練習
2	あそびうた(2)	あそびうたの弾き歌い練習
3	あそびうた(3)	あそびうたの弾き歌い練習
4	あそびうた(4)	あそびうたの弾き歌い練習
5	あそびうた(5)	あそびうたの弾き歌い練習
6	成果発表①	あそびうたの弾き歌い発表
7	季節のうた：夏(1)	夏の季節の弾き歌い練習
8	季節のうた：夏(2)	夏の季節の弾き歌い練習
9	季節のうた：夏(3)	夏の季節の弾き歌い練習 チャレンジ曲の弾き歌い練習
10	季節のうた：夏(4)	夏の季節の弾き歌い練習 チャレンジ曲の弾き歌い練習
11	季節のうた：秋(1)	秋の季節の弾き歌い練習
12	季節のうた：秋(2)	秋の季節の弾き歌い練習
13	季節のうた：秋(3)	秋の季節の弾き歌い練習 チャレンジ曲の弾き歌い練習

14	季節のうた：秋（４）	秋の季節の弾き歌い練習 チャレンジ曲の弾き歌い練習
15	成果発表②	季節のうた「夏・秋」から弾き歌い発表
16	季節のうた：冬（１）	冬の季節の弾き歌い練習
17	季節のうた：冬（２）	冬の季節の弾き歌い練習
18	季節のうた：冬（３）	冬の季節の弾き歌い練習 チャレンジ曲の弾き歌い練習
19	季節のうた：冬（４）	冬の季節の弾き歌い練習 チャレンジ曲の弾き歌い練習
20	季節のうた：春（１）	春の季節の弾き歌い練習
21	季節のうた：春（２）	春の季節の弾き歌い練習
22	季節のうた：春（３）	春の季節の弾き歌い練習 チャレンジ曲の弾き歌い練習
23	季節のうた：春（４）	春の季節の弾き歌い練習 チャレンジ曲の弾き歌い練習
24	成果発表③	季節のうた「冬・春」から弾き歌い発表
25	その他のうた（１）	未習得のこどものうたの弾き歌い練習
26	その他のうた（２）	未習得のこどものうたの弾き歌い練習
27	その他のうた（３）	未習得のこどものうたの弾き歌い練習
28	その他のうた（４）	未習得のこどものうたの弾き歌い練習
29	その他のうた（５）	未習得のこどものうたの弾き歌い練習
30	成果発表④	これまで学習した曲から弾き歌い発表

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	音楽表現VI		
必修選択	選択	(学則表記)	音楽表現VI		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	CD付きこころからだを育む1～5歳のたのしいリズム 保育で使える合奏楽譜ベストセレクション		出版社	ナツメ社 ひかりのくに	

科目の基礎情報②

授業のねらい	リズムの考えを学び、子どもの音楽表現に役立てる。 合奏の指導技術を身につける。				
到達目標	リズムの意義を理解し、指導ができる。 楽器の指導法を理解し、指導ができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	音楽表現Ⅰ・音楽表現Ⅱ・音楽表現Ⅲ・音楽表現Ⅳ・音楽表現Ⅴ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	菱山 朝美	実務経験		○	
実務内容	インターナショナルスクール(小学校)音楽専任講師として2年、インターナショナルスクールプリスクールにて音楽講師として2年・保育士として1年、音楽教室ピアノ講師として7年勤務をした実務経験を基に、リズムを教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	リズムの要素を考え方
2	1歳のリズム	1歳のリズムのテーマ
3	2歳のリズム	2歳のリズムのテーマ
4	2歳のリズム	2歳のリズムのテーマ
5	3歳のリズム	3歳のリズムのテーマ
6	3歳のリズム	3歳のリズムのテーマ
7	3歳のリズム	3歳のリズムのテーマ
8	4歳のリズム	4歳のリズムのテーマ
9	4歳のリズム	4歳のリズムのテーマ
10	4歳のリズム	4歳のリズムのテーマ
11	5歳のリズム	5歳のリズムのテーマ
12	5歳のリズム	5歳のリズムのテーマ
13	5歳のリズム	5歳のリズムのテーマ

14	リトミックの実践	指導計画立案と発表
15	リトミック活動のまとめ	リトミックで学んだことの確認と振り返り
16	幼児の器楽合奏 2歳児の器楽合奏	幼児の器楽合奏における留意点と指導法 2歳児の発達と音楽
17	2歳児の器楽合奏	2歳児の器楽合奏の実践と指導
18	3歳児の器楽合奏	3歳児の発達と音楽
19	3歳児の器楽合奏	3歳児の器楽合奏の実践と指導
20	2・3歳児のまとめ	2・3歳児の指導計画立案
21	2・3歳児のまとめ	2・3歳児の模擬指導の実践
22	4歳児の器楽合奏	4歳児の発達と音楽
23	4歳児の器楽合奏	4歳児の器楽合奏の実践と指導
24	4歳児の器楽合奏	4歳児の器楽合奏の実践と指導
25	5歳児の器楽合奏	5歳児の発達と音楽
26	5歳児の器楽合奏	5歳児の器楽合奏の実践と指導
27	5歳児の器楽合奏	5歳児の器楽合奏の実践と指導
28	5歳児の器楽合奏	5歳児の器楽合奏の実践と指導
29	幼児の器楽合奏のまとめ	演奏発表と模擬指導計画立案
30	幼児の器楽合奏のまとめ	演奏発表と模擬指導実践のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	保育実践演習		
必修選択	選択	(学則表記)	保育実践演習		
開講					
年次	3年	学科	こども総合学科	単位数	2
使用教材	0～5歳児の発達にあったあそびパーフェクトBOOK		出版社	ナツメ社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	実際の保育現場における設定保育や園行事の運営を模擬的に体験し、行事の成り立ちを理解し、留意点に気づく。子どもの育ちと遊びの関連性について理解し、具体的な遊びを立案、実践できる。				
到達目標	①指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観などが習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 ②保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 ③①及び②を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をする。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	実習指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	細貝 八寿代	実務経験	○		
実務内容	幼稚園で幼稚園教諭として21年8ヶ月、保育園で保育士として3年1ヶ月勤務をした実務経験を基に、保育現場における園行事の運営方法や、子どもの育ちと遊びの関連性について教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	・授業ガイダンス	・授業概要、ねらいなどの説明 ・これまでの授業の振り返り
2	・遊びのどうしよう？対処法 ・第1章 ふれあい遊び	・あそびの中での「どうしよう」について考える ・あそびから育ちを知る
3	・第1章 ふれあいあそび	・ふれあいあそびの立案・準備 ・ふれあいあそびの模擬保育（グループ内発表）
4	・第1章 ふれあいあそび	・ふれあいあそびの模擬保育（全体発表） ・ふれあいあそび振り返り、発表のフィードバック
5	・第2章 運動あそび	・身体を使ったあそび ・年齢に応じた運動遊びについて知る・立案
6	・第2章 運動あそび	・運動あそびの模擬保育（全体発表・フィードバック）
7	・主体性保育	・主体性保育の意義を知学ぶ
8	・主体性保育	・制作活動における主体性保育の実践 ・解説と振り返り
9	・模擬行事① 運動会	・運動会の計画、役割、導入について知る ・運動会のテーマ、プログラム内容決め（模擬職員会議）
10	・模擬行事① 運動会	・運動会の準備 ・大道具、小道具準備
11	・模擬行事① 運動会	・運動会のリハーサル ・運動会の実践

12	・知育あそび	・知育あそびについて学び、おもちゃを作成する
13	・模擬行事② 避難訓練	・避難訓練について知る ・訓練の種類について考え、計画する
14	・模擬行事② 避難訓練	・避難訓練についての発表、振り返り
15	・ちょこっとあそび	・ちょこっとあそびについて ・ちょこっとあそびの発表、振り返り
16	・第4章 造形あそび	・あそびから育ちを知る ・年齢に応じた造形あそびを立案する
17	・第4章 造形あそび	・あそびから育ちを知る ・年齢に応じた造形あそびを立案する
18	・第4章 造形あそび	・年齢に応じた造形あそびの発表、フィードバック
19	・模擬行事③	・成長を祝う行事について知る ①誕生会 ②こどもの日 ③七五三 ④ひな祭り
20	・模擬行事③ 誕生会	・模擬行事（誕生会）の準備 ・誕生カード制作
21	・模擬行事③ 誕生会	・誕生会の実施、フィードバック
22	・模擬行事④ 発表会	・発表会の計画、役割、導入、準備について知る
23	・模擬行事④ 発表会	・衣装、大道具、小道具作成、シナリオ、BGMなど準備の進め方を学ぶ
24	・模擬行事④ 発表会	・衣装、大道具、小道具作成、シナリオ、BGMなど準備の進め方を学ぶ
25	・第5章 集団あそび	・集団あそびについて知る
26	・第5章 集団あそび	・集団あそびについて知る
27	・伝承遊び	・伝承遊び・昔遊び～昔から親しまれている日本の遊び ・伝承遊びの実践
28	・第6章 季節あそび	・季節ならではのあそびを知る
29	・第7章 言葉あそび	・言葉のおもしろさを伝える遊びの体験
30	・年間授業振り返り	・7つのあそびから育ちを知る振り返り ・年間の模擬保育、模擬行事の振り返り、フィードバック

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	実習指導Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	実習指導Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	各校裁量		出版社	各校裁量	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育実習の意義を理解し、実習に必要な知識、技能、心構えを身に付ける。保育者としての専門性をより高める。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 ②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の完全について実践や事例を通して学ぶ。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	実習指導Ⅰ・実習指導Ⅱ・保育実習Ⅰ(保育所)・保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	高橋 まどか	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス 保育実習の概要	保育実習について・ステップアップ表の確認
2	保育実習日誌の書き方	保育実習日誌の書き方 復習
3	保育実習日誌の書き方	0～2歳児の発達と配慮点について
4	保育実習日誌の書き方	エピソード記録の書き方確認・日誌全項目の内容確認
5	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
6	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
7	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
8	責任実習指導案作成	責任実習での具体的配慮や書き方を確認する
9	責任実習指導案作成	責任実習での具体的配慮や書き方を確認する
10	責任実習指導案作成	責任実習での具体的配慮や書き方を確認する
11	責任実習指導案作成	責任実習での具体的配慮や書き方を確認する

12	実習直前指導	自己課題の準備と確認 プライバシーの保護と守秘義務について
13	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
14	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
15	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
16	施設の保育について学ぶ	保育所と他施設の連携について学ぶ
17	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
18	部分実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
19	責任実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
20	責任実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
21	責任実習指導案作成	自己課題に沿った指導案を作成する
22	実習直前指導	自己課題の準備と確認 プライバシーの保護と守秘義務について
23	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
24	保育実習振り返り	経験を報告し合い、今後の自己課題を明確化する
25	見通しを持った保育の必要性①	月案から週案を立案する
26	見通しを持った保育の必要性②	月案から週案を立案する
27	就職後を見据えた取り組み①	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う
28	就職後を見据えた取り組み②	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う
29	就職後を見据えた取り組み③	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う
30	就職後を見据えた取り組み④	今までの取り組みを振り返り、現場に必要な実践力を培う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅰ（保育所）		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習Ⅰ（保育所）		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について学ぶために、保育所の生活に参加する。				
到達目標	①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
評価基準	実習評価40 日誌・指導案60 を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。				
認定条件	実習規定に定める必要時間数以上の出席をしている者。 成績評価が3以上の者。 保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位を習得している者。				
関連資格					
関連科目	保育実習指導Ⅰ（保育所）・保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐々木 璃子	実務経験		○	
実務内容	保育園で保育士として6年間勤務をした実務経験を基に、保育実習期間中の学生を指導・支援する。				

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅰ（施設）		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習Ⅰ（施設）		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	児童福祉施設や障害者支援施設にて実習を行い、保育士としての必要な基礎的な子どもや施設利用者に対する理解を深める。				
到達目標	①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
評価基準	実習評価40 日誌・指導案60 を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐々木 璃子	実務経験		○	
実務内容	保育園で保育士として6年間勤務をした実務経験を基に、保育実習期間中の学生を指導・支援する。				

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	保育実習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育所での保育を実施し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を身にするける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ③既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について相互的に理解する。 ④保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 ⑥実習における自己の課題を明確化する。 				
評価基準	実習評価40 日誌・指導案60 を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。				
認定条件	出席が90単位以上ある者。 成績評価が3以上の者。 実習指導Ⅲの単位を取得している者。				
関連資格					
関連科目	実習指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐々木 璃子	実務経験		○	
実務内容	保育園で保育士として6年間勤務をした実務経験を基に、保育実習期間中の学生を指導・支援する。				

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	保育実習Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育所での保育を実施し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を身にするける。				
到達目標	<p>①既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や昨日について実践を通して、理解する。</p> <p>②家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、庇護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。</p> <p>③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。</p> <p>④実習における自己の課題を理解する。</p>				
評価基準	実習評価40 日誌・指導案60 を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。				
認定条件	出席が90単位以上ある者。 成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	保育実習指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐々木 璃子	実務経験	○		
実務内容	保育園で保育士として6年間勤務をした実務経験を基に、保育実習期間中の学生を指導・支援する。				

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	施設実習		
必修選択	選択	(学則表記)	施設実習		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	1	45
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	児童福祉施設や障害者支援施設にて実習を行い、保育士としての必要な基礎的な子どもや施設利用者に対する理解を深める。				
到達目標	①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保育者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
評価基準	実習評価40 日誌・指導案60 を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。				
認定条件	出席が45単位時間以上ある者。 成績評価が3以上の者。 実習指導IVの単位を取得している者。				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐々木 璃子	実務経験		○	
実務内容	保育園で保育士として6年間勤務をした実務経験を基に、保育実習期間中の学生を指導・支援する。				

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	実習指導Ⅳ		
必修選択	選択	(学則表記)	実習指導Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育実習の理解を高め、保育士としての基本的な態度、知識、技術の基礎を形成するとともに、保育実習に向けた課題の明確化を図る				
到達目標	①保育実習の意義・目的を理解する。 ②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が2/3以上ある者。 成績評価が3以上の者。 施設実習の単位が習得できている者。				
関連資格	保育士				
関連科目	施設実習				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	高橋 まどか	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	実習の概要	保育実習に向けての準備する内容を理解する
2	保育実習の目的理解	保育実習（施設）の「目的」「意義」「内容」を理解する
3	倫理綱領①	保育士倫理綱領を理解する
4	倫理綱領②	保育士倫理綱領を理解する
5	実習先の種類と概要①	実習先の施設種類における概要を理解する
6	実習先の種類と概要②	実習先の施設種類における概要を理解する
7	実習先の種類と概要③	実習先の施設種類における概要を理解する
8	実習施設調査	自分の実習先について調べ、施設種別と実習先の特徴について整理する
9	保育実習内容の明確化	実習施設調査を踏まえて実習先の施設種別と保育実習における内容の位置付けを図る
10	保育実習課題の明確化	実習施設調査を踏まえて保育実習を通しての課題及び各実習日の実習課題について検討する
11	実習生としての心構え①	心構え、実習時の服装、基本的な礼儀、マナー、電話のかけ方について考える

12	実習生としての心構え②	通所施設における礼儀やマナー、宿泊に伴う礼儀やマナーについて考える
13	プライバシーの保護と守秘義務	実習先における入所、通所見者のプライバシー保護及び守秘義務について理解する
14	トラブルシューティング	保育実習におけるトラブル事例について考察し、対応策について検討する
15	子どもの保育と保護者支援	子どもの保育における保護者支援を検討する
16	実習における計画	実習期間における実習計画書を作成する
17	保育実習における観察	保育実習における観察実習について理解する
18	保育実習における記録の意義・方法	実習日誌の意義と方法を理解する
19	保育実習における記録①	実習日誌の書き方を理解し、実際に作成する
20	保育実習における記録②	実習日誌の記載方法について深める
21	部分実習指導案	部分実習指導案の立て方を学ぶ 自分の実習先を想定し、指導案を書く
22	部分実習指導案	部分実習指導案の立て方を学ぶ 自分の実習先を想定し、指導案を書く
23	部分実習実践	指導案を基にグループで部分実習の実践をする
24	実習の振り返り	実習における振り返りを行い自己覚知を図る
25	実習報告書の作成①	実習計画書に基づき、実習報告書を作成する
26	実習報告書の作成②	実習計画書に基づき、実習報告書を作成する
27	発表①	保育実習を通しての学びを他者と共有する
28	発表②	保育実習を通しての学びを他者と共有する
29	実習の総括と自己評価	保育実習を通しての総括と自己評価を行う
30	課題の明確化	実習を通して学んだことを振り返る

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	心理実践Ⅰ／子育て心理		
必修選択	選択必修	(学則表記)	心理実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子育ての発達心理学		出版社	同文書院	

科目の基礎情報②

授業のねらい	発達段階ごとの子どもの成長の主な特徴について発達心理学の知見を踏まえ理解するとともに、各発達段階において生じる子ども及び保護者の課題に対する対応について事例を通して学ぶ。				
到達目標	1.心理学的観点から、発達についての知識を習得する。 2.病児や躰き等、様々な子どもの発達特性や、その保護者の心理状態について知識を習得する。 3.家庭や福祉医療施設等における子育ての背景を理解し、保護者への適切な関わりについての知識・技術を習得する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	心理実践Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	高橋 まどか	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について 子どもはどうやって育つか
2	乳幼児と養育者	知性の身体化と養育者の役割
3	保育と発達 ①	保育の5領域と発達理論の関係 ①
4	保育と発達 ②	保育の5領域と発達理論の関係 ②
5	様々な発達理論 ①	乳幼児期と愛着 ①(愛着の形成と展開)
6	様々な発達理論 ②	乳幼児期と愛着 ②(愛着形成を阻害するものとは)
7	様々な発達理論 ③	乳幼児期と保幼小接続
8	様々な発達理論 ④	児童期以降の発達理論 ①
9	様々な発達理論 ⑤	児童期以降の発達理論 ②
10	様々な発達理論 ⑥	児童期以降の発達理論 ③
11	様々な発達理論 ⑦	児童期以降の発達理論 ④
12	様々な発達理論 ⑧	児童期以降の発達理論 ⑤

13	情緒の発達 ①	情緒・感情とは
14	情緒の発達 ②	他者感情の理解と向社会的行動の発達
15	総まとめ ①	振り返り 解説
16	認知の発達 ①	認知の発達 ①
17	認知の発達 ②	認知の発達 ②
18	認知の発達 ③	認知の発達 ③
19	子どもの遊びの発達 ①	発達と遊びの関係性 ①
20	子どもの遊びの発達 ②	発達と遊びの関係性 ②
21	子どもの遊びの発達 ③	発達と遊びの関係性 ③
22	子どもの遊びの発達 ④	発達と遊びの関係性 ④
23	発達の遅れと養育者・施設の役割 ①	発達を妨げる疾病等の理解 ①
24	発達の遅れと養育者・施設の役割 ②	発達を妨げる疾病等の理解 ①
25	発達の遅れと養育者・施設の役割 ③	各障害の特徴と対処例 ①
26	発達の遅れと養育者・施設の役割 ④	各障害の特徴と対処例 ②
27	発達の遅れと養育者・施設の役割 ⑤	福祉施設が目指す子どもの発達
28	子育て支援について ①	子育て支援の必要と手法
29	子育て支援について ②	子どもの観察と研究法
30	総まとめ ②	振り返り 解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	心理実践Ⅱ／子育て家庭とストレスケア		
必修選択	選択必修	(学則表記)	心理実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	ストレス・マネジメント入門 保育者のためのこども虐待対応の基本		出版社	金剛出版 ひとなる書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	虐待によって受ける心身への深刻な影響や死亡する子どもが増加する現代社会において、日常的に子どもと関わる専門職に求められる知識や具体的な対応について理解していく。				
到達目標	1.保育・教育実践にかかわる心理学的知識を習得する。 2.発達障害やその他の乳幼児のための教育評価・支援方法を現代社会の問題に沿って習得する。 3.虐待が発生する一要因としてのストレスについて学び、対処技術であるストレスマネジメントを習得する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	心理実践Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	清家 弘子	実務経験	○		
実務内容	幼稚園に幼稚園教諭として7年、保育所にて保育士として16年、現在は子育てでひろばで勤務している実務経験を基に、教育相談の理論や方法、カウンセリングの基礎知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について保護者・子どもに起こるストレスについて学ぶ意義
2	保護者が抱えるストレス ①	ストレスとは
3	保護者が抱えるストレス ②	子育てにおける不安 子育てで怒る保護者の気持ち
4	児童虐待とは ①	虐待とは 何が虐待を招くのか 児童虐待に関わる法令
5	児童虐待とは ②	様々な虐待事件について
6	児童虐待とは ③	コモンセンスペアレンティングの導入
7	子どもへの様々な影響 ①	不適切な環境による子どもへの影響
8	子どもへの様々な影響 ②	不適切な環境へのストレスコーピング
9	子どもへの様々な影響 ③	不適切な環境が構築される要因と対策
10	環境刺激に対するヒトの行動様式	保護者の養育態度とタイプ行動A
11	ストレスに強い人格 ①	保護者が子どもに望むこと
12	ストレスに強い人格 ②	保護者が自己効力感を得る支援

13	園における対応と流れ ①	保護者・子どもへの変化の気づき
14	園における対応と流れ ②	児童虐待への対応 保護者の悩みを受容する意味
15	総まとめ ①	振り返り・解説
16	社会的興味と外向性 ①	社会的興味 内向性・外向性
17	社会的興味と外向性 ②	保護者が他者と関わる意味 ①
18	社会的興味と外向性 ③	保護者が他者と関わる意味 ②
19	楽観主義と完璧主義 ①	楽観主義と完璧主義 ①
20	楽観主義と完璧主義 ②	楽観主義と完璧主義 ②
21	イメージリラクセス・トレーニング	子育てとリラクゼーション
22	問題解決法とタイムマネジメント ①	日常生活における時間的余裕へのアプローチ
23	問題解決法とタイムマネジメント ②	子育て家庭における時間的経過と時間的余裕へのアプローチ
24	非合理的な考え方 ①	非合理的な考え方の理論と要因 ①
25	非合理的な考え方 ②	非合理的な考え方の理論と要因 ②
26	様々なケースへのアプローチ ①	多様な虐待ケースにおける対応 ①
27	様々なケースへのアプローチ ②	多様な虐待ケースにおける対応 ②
28	様々なケースへのアプローチ ③	多様な虐待ケースにおける対応 ③
29	生活とストレスの関係	ストレスが及ぼす生活への影響を振り返る
30	総まとめ ②	振り返り・解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	心理実践Ⅲ／カウンセリング		
必修選択	選択必修	(学則表記)	心理実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子育て支援カウンセリング 幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート		出版社	図書文化社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	カウンセリングの諸理論を通してカウンセリング場面の基本的姿勢や技法を体験学習を通じて学ぶ。 また、自身や他者のこのころについて理解を深め、人との関わりについて学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの理論と実施について習得する。 ・教育、臨床現場で起こりえる問題や状況に応じた援助に役立つ能力を習得する。 ・傾聴、他者理解を体験しながら身につける。 				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	心理実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	清家 弘子	実務経験	○		
実務内容	幼稚園に幼稚園教諭として7年、保育所にて保育士として16年、現在は子育てでひろばで勤務している実務経験を基に、教育相談の理論や方法、カウンセリングの基礎知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス よりよい子育て支援のために	授業の進め方について 保育者の心を支えるために必要なこと
2	自分を知る・他者を知る	自己開示とは 物事の感じ方を理解する
3	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ①	ロジャーズの来談者中心療法
4	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ②	カウンセリングに必要なコミュニケーション ①
5	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ③	カウンセリングに必要なコミュニケーション ②
6	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ④	ロールプレイ体験 ①
7	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ⑤	共感と純粋性
8	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ⑥	沈黙が訪れる場面とその時の対応 質問の技法
9	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ⑦	ロールプレイ体験 ②
10	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ⑧	繰り返しの技法 会話を要約をする意味
11	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ⑨	クライアントの支持をする意味
12	子育て支援に生かすカウンセリングの理論と技法 ⑩	ロールプレイ体験 ③

13	子育て支援に生かす様々な心理学理論 ①	フロイトの精神分析論
14	子育て支援に生かす様々な心理学理論 ②	アドラーの個人心理学
15	総まとめ ①	振り返り・解説
16	子育て支援に生かす様々な心理学理論 ③	ユング心理学
17	子育て支援に生かす様々な心理学理論 ④	交流分析
18	子育て支援に生かす様々な心理学理論 ⑤	行動心理学
19	子育て支援に生かす様々な心理学理論 ⑥	認知心理学
20	子育て支援に生かす様々な心理学理論 ⑦	ブリーフセラピー
21	養育困難を抱える保護者の理解とサポート	養育のリスク要因 虐待が疑われる家庭
22	障害のある子どもをもつ保護者の理解とサポート	保護者との信頼関係 多くみられる障害について
23	精神疾患の疑いのある保護者の理解とサポート	サポートがうまくいかない時の一要因 多くみられる疾患について
24	子育て支援に生かす様々なアセスメント技法 ①	アセスメント技法 ①
25	子育て支援に生かす様々なアセスメント技法 ②	アセスメント技法 ②
26	その他の心理療法 ①	様々な心理療法 ①
27	その他の心理療法 ②	様々な心理療法 ②
28	親としての成長を支える	親になるということへの理解
29	カウンセリング技法等の振り返り	【事例を通して】ロールプレイ
30	総まとめ ②	振り返り・解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	心理実践Ⅳ／モチベーションインストラクター		
必修選択	選択必修	(学則表記)	心理実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	モチベーション・インストラクター資格【前編】【後編】 人生が大きく変わる アドラー心理学入門		出版社	一般社団法人モチベーションマネジメント協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	目標達成への行動を喚起する、また達成するまで行動を持続するための理論理解は、保育者として必要な力である。本科目では身近な生活場面を元にモチベーション理論を実践的に学び、理解していく。				
到達目標	①活動場面を中心に、自身のモチベーションを高め、維持する方法を習得する。 ②保育者として保護者・子ども、または同僚のモチベーションを高める実践的な方法を習得する。 ③「公認モチベーション・インストラクター資格」を取得することができる				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	モチベーション・インストラクター資格				
関連科目	心理実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	重松 美恵	実務経験		○	
実務内容	保育園にて保育士として11年間勤務した実務経験を基にカウンセリング場面の基本的姿勢や技法を体験学習を通じて教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	モチベーションとは	モチベーション・インストラクター資格の趣旨理解 ①モチベーションとは何か ②なぜ重要か ③高める必要があるのか
2	期待理論①	モチベーションの3つの要素とは
3	期待理論②(やりたい感)	やりたい感を高める3つのポイント
4	期待理論③(やらなげ感)	やらなげ感を高める4つのポイント
5	期待理論④(やれそう感)	やれそう感を高める3つのポイント
6	復習	期待理論
7	選択理論	選択理論
8	構造転換(スイッチ&フォーカス)	構造転換(スイッチ&フォーカス)
9	影響力の源泉	5つの影響力の源泉
10	PM理論	PM理論・2種類のリーダーシップ
11	テスト+復習	選択理論・構造展開を使いこなす
12	外発的/内発的モチベーション	モチベーションのタイプについて

13	欲求階層説 (マズロー)	状態による欲求の違い
14	集団凝集性	集団・組織に魅力を感じる3つのポイント
15	全体まとめ	全体まとめ・インストラクター資格について
16	アドラー心理学とフロイト心理学	アドラー心理学とフロイト心理学の違い
17	アドラー心理学と5つの理論 ①	アドラー心理学とは ①
18	アドラー心理学と5つの理論 ②	アドラー心理学とは ②
19	自分との付き合い方 ①	感情との付き合い方
20	自分との付き合い方 ②	「怒り」との付き合い方
21	自分との付き合い方 ③	ライフタクス
22	人間関係 ①	人間関係とは
23	人間関係 ②	人間関係を作る理論と技法
24	仕事・リーダーとしての心理学 ①	集団心理 リーダーシップ論
25	仕事・リーダーとしての心理学 ②	アサーショントレーニング
26	仕事・リーダーとしての心理学 ③	コーチング
27	親子・家族関係の心理学 ①	家族理論
28	親子・家族関係の心理学 ②	望ましい親子関係とは
29	人生を豊かにする心理学	失敗から立ち直るということ
30	全体まとめ ②	振り返り 確認

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	スポーツ実践Ⅰ(幼児体育)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	子どものからだを操作する力をはぐくもう		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児期の子どもに合わせた指導プログラムの立案・指導方法、実技を身につける。				
到達目標	幼児期に適切な運動能力の基盤づくりができる方法を述べることができる。 乳幼児の発達特性に合わせた運動プログラムの立案をすることができる。 子ども達の見本となる運動実技・指導を実施することはできる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	こども運動指導者検定(Basic)・こども運動指導者検定(Core)				
関連科目	スポーツ実践Ⅱ・スポーツ実践Ⅲ・スポーツ実践Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	河本 昂	実務経験		○	
実務内容	市立幼稚園で幼稚園教諭として2年保育所で保育者として6年,勤務をした実務経験を基に、子どもの理解と運動遊びの実践について教授する。				

hoiほい

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	導入編 体操の特性	幼児期に体操がなぜいいのかを学ぶ
3	実技編 マット運動	マット運動の基本の動き「前転・開脚前転・後転・開脚後転」を実践する
4	指導編 マット運動	前転・後転の基本的な指導法と補助法を身に付け、指導する
5	実技編 跳び箱運動	跳び箱の基本「開脚跳び」の動きを実践する
6	指導編 跳び箱運動	跳び箱運動の段階指導を学びながら補助法を学ぶ
7	実技編 実技確認	マット運動、跳び箱運動の実技確認を実施する
8	理論編 子どもの運動発達	子どもの運動発達と基本運動
9	理論編 乳幼児期の発達	乳幼児期の発達過程を理解する
10	導入編 基本運動の両足跳び	発達に合わせた縄跳び運動を理解し「前まわし跳び」の運動遊びを考案する
11	指導編 両足跳びの動きの発展	両足跳びの動きの発展として系統的指導を実践する
12	実技編 縄跳び運動	縄跳び運動の種類を知り、縄跳びを使ったオリジナルの運動遊びを考案する

13	指導編 縄跳び運動	縄跳び運動の指導実践を行う
14	実技編 実技確認	マット運動、跳び箱運動の実技確認を実施する
15	前期まとめ	前期授業の振り返り
16	検定対策	認定試験（学科、実技）を前期授業内容から確認する
17	実技編 鉄棒運動	鉄棒運動の基本「足抜きまわり・尻上がり」「前回りおり」「逆上がり」の動きを実践する
18	指導編 鉄棒運動	鉄棒運動の段階指導と補助法を理解し、実践する
19	実技編 実技確認	鉄棒運動、縄跳び運動の実技確認を実施する
20	導入編 指導形態	指導形態の長所と短所を理解し、適切な指導法を実践する
21	考案編 系統的指導	幼児期における運動のあり方と課題を知る
22	実践編 ことばの機能	からだを操作しながらことばの機能について学ぶ
23	考案編 New Sports	「誰でも、いつからでも、楽しく」をテーマにNew Sportsを考案する
24	共有編 New Sports	考案したNew Sportsを共有する
25	準備編 実践準備	New Sportsと系統的指導の指導実践の準備を行う
26	New Sports まとめ	考案したNew Sports を実践する
27	New Sports まとめ	考案したNew Sports を実践する
28	系統的指導 まとめ	基本運動の系統的指導の考案し実践する
29	系統的指導 まとめ	基本運動の系統的指導の考案し実践する
30	総まとめ	振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	スポーツ実践Ⅱ(幼児レクリエーション)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児レクリエーションを通して他者と交流し、レクリエーションの指導技術を身につける。				
到達目標	幼児レクリエーションの目的を理解し、実践できる。 対象に合わせたレクリエーション指導ができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	スポーツ実践Ⅰ・スポーツ実践Ⅲ・スポーツ実践Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	河本 昂	実務経験	○		
実務内容	市立幼稚園で幼稚園教諭として2年保育所で保育者として6年勤務をした実務経験を基に、子どもの運動機能が向上し、リズム感を養い社交性につながる指導ができるように教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	運動遊びと幼児のレクリエーション	レクリエーションや遊びについて理解する
2	伝承遊び①	昔からある遊びについて理解し、実践する
3	伝承遊び②	昔からある遊びについて理解し、グループで実践する
4	手遊びを理解する	子どもの発達に合わせた手遊びを学び、理解する
5	手遊びを理解し、実践する	子どもの発達に合わせた手遊びをグループごとに発表する
6	ことばの機能を育てるレク①	音や声を使い身体を表現する指導法を実践する
7	ことばの機能を育てるレク②	音や声を使い身体を表現する指導法をグループに分かれて実践する
8	社会性を育てるレク①	子どもたちの発達段階に合わせた運動遊び、レクリエーションを学ぶ
9	社会性を育てるレク②	子どもたちの発達段階に合わせた運動遊び、レクリエーションを学ぶ
10	ごっこ遊び①	子どもたちの発達段階に合わせたごっこ遊びを学ぶ
11	ごっこ遊び②	子どもたちの発達段階に合わせたごっこ遊びを学び、グループごとに発表する
12	乳幼児からできる運動遊び	年齢別の動きを理解し乳幼児から親子で楽しめる運動遊びを実践する
13	発展性のある運動遊び①	伝承遊びや様々な遊びの基本的ルールを発展的に考える

14	発展性のある運動遊び②	グループごとにテーマを与え先生役、子ども役に別れてニュースポーツを行う
15	前期まとめ	前期授業の振り返り
16	後期オリエンテーション	後期の授業内容、ねらい、到達目標の確認
17	身体を使ったレクリエーション① (用具・手具)	年齢別にレクリエーションを理解し、身近な物を使い動きながら理解を深める
18	身体を使ったレクリエーション② (座った姿勢・床、椅子)	年齢別にレクリエーションを理解し、座った姿勢で出来るレクを考え、動きながら理解を深める
19	身体を使ったレクリエーション③ (グループレク)	年齢別にレクリエーションを理解し、大人数で出来るレクを実際に動きながら理解を深める
20	ボールを使ったレクリエーション	発達段階に合わせたボールレクリエーションを実践する
21	新聞紙遊び	新聞紙を使い年齢に合わせたレクリエーション遊びを実践する
22	鬼ごっこ①	年齢別の動きを理解し、室内、屋外で出来る鬼ごっこを学び、実践する
23	鬼ごっこ②	年齢別の動きを理解し、室内、屋外で出来る鬼ごっこを学び、理解した上で先生役、子供役に分かれて行う
24	レクリエーション大会 考案	レクリエーション大会を実践する上でのルールや役割を考案する
25	レクリエーション大会 準備	レクリエーション大会を実践する上での準備を行う
26	レクリエーション大会 実践	レクリエーション大会を実践する
27	後期振り返り①	レクリエーション大会の振り返りを実施
28	室内レクリエーション①	室内で出来るレクを学び、グループに分かれて考案し、実践する
29	屋外レクリエーション②	屋外で出来るレクを学び、グループに分かれて考案し、実践する
30	後期振り返り②	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	スポーツ実践Ⅲ(保育行事・イベント運営)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	各園で行われている運動遊びに関わる行事を知り、保育者として行事の知識を習得する。				
到達目標	各行事の目的を理解した上で、運営できる。 行事やイベントの内容を立案することができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	スポーツ実践Ⅰ・スポーツ実践Ⅱ・スポーツ実践Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	河本 昂	実務経験		○	
実務内容	市立幼稚園で幼稚園教諭として2年保育所で保育者として6年勤務をした実務経験を基に、保育行事の内容が理解でき、指導案が立てられるよう、知識を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について、保育現場で行われている保育行事、保育活動について知る
2	イベント行事	イベントや行事の目的、組み立て、予算、行程表の作成方法、こどもや保護者伝達方法を考える
3	考案編/春の親子遠足	遠足や保育参観の目的、意義を理解し、春の親子遠足を考案する
4	準備編/春の親子遠足	春の親子遠足の企画、発表の準備
5	発表編/春の親子遠足	企画した春の親子遠足について発表
6	体力測定	幼児が行う体力測定の種類、測定方法を学ぶ
7	体力測定	体力測定の指導実践を行う
8	考案編/お泊りキャンプ	お泊りキャンプについて学ぶ
9	準備編/お泊りキャンプ	お泊りキャンプについて企画、発表の準備
10	発表編/お泊りキャンプ	企画したお泊りキャンプについて発表
11	怪我や応急処置	怪我の種類や応急処置について学ぶ
12	考案編/スポーツ大会	各園で実施されているスポーツ大会や球技大会について学ぶ
13	準備編/スポーツ大会	スポーツ大会について考案、企画する

14	実践編/スポーツ大会	企画したスポーツ大会を発表する
15	前期まとめ	前期授業の振り返り
16	後期オリエンテーション	後期の授業内容、ねらい、到達目標の確認
17	考案編/運動会	各園で実施されている運動会について学ぶ
18	準備編/運動会	運動会プログラムを考案する
19	準備編/運動会	運動会プログラムを考案する
20	実践編/運動会	運動会を発表する
21	考案編/マラソン大会	マラソン大会について学ぶ
22	準備編/マラソン大会	マラソン大会について企画、発表の準備
23	実践編/マラソン大会	企画したマラソン大会について発表
24	保育行事	保育行事を学ぶ
25	考案編/New Event/新しい行事	「年度最後のスポーツ行事」をテーマにNew Eventを考案する
26	準備編/New Event/新しい行事	考案したNew Eventの発表準備
27	実践編/New Event/新しい行事	考案したNew Eventを実践する
28	実践編/New Event/新しい行事	考案したNew Eventを実践する
29	後期の振り返り	後期で学んだ事をレポートにまとめる
30	まとめ	後期で学んだ事をレポートにまとめ発表

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	スポーツ実践Ⅳ(キッズダンス)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児期の子どもに合わせたリズム運動遊び、キッズダンスの指導プログラムの立案・指導方法を身につける。				
到達目標	乳幼児の発達特性に合わせたリズム運動遊び、キッズダンスのプログラムを立案することができる。 リズム運動遊び、キッズダンスの指導方法を身につけ、実践できる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	スポーツ実践Ⅰ・スポーツ実践Ⅱ・スポーツ実践Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	河本 昂	実務経験		○	
実務内容	市立幼稚園で幼稚園教諭として2年保育所で保育者として6年勤務をした実務経験を基に、子どもの運動機能が向上し、リズム感を養い社交性につながる指導ができるように教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、授業のねらい、到達目標、評価基準について理解する
2	リズム運動遊び	音楽やリズムに合わせて動くリズム運動遊びを実践する
3	実技編 リズムトレーニング	音楽に合わせてジャンプ動作を行う
4	考案編 リズムトレーニング	音楽に合わせてジャンプ動作の指導準備
5	指導編 リズムトレーニング	音楽に合わせてジャンプ動作を指導する
6	制限を使ったリズム運動遊び	座った姿勢でのリズム遊びやボールを使ったリズム運動を学ぶ
7	実技編 ダンス実践	課題曲でキッズダンスを実践する
8	考案編 音楽体操	音楽体操の振付を考案する
9	実技編 音楽体操	考案した音楽体操を実践する
10	指導編 音楽体操	考案した音楽体操の指導実践
11	考案編 リズム運動遊び指導実践	リズム運動遊びの指導実践内容を考案する
12	実技編 リズム運動遊び指導実践	リズム運動遊びの指導実践内容を実践する
13	指導編 リズム運動遊び指導実践	音楽体操からリズム運動遊び、リズムトレーニングまでの指導実践

14	指導編 リズム運動遊び指導実践	音楽体操からリズム運動遊び、リズムトレーニングまでの指導実践
15	前期まとめ	前期授業の振り返り
16	後期オリエンテーション	後期の授業内容、ねらい、到達目標の確認
17	運動会とキッズダンス	主に未満児の演技を考案する
18	運動会とキッズダンス	主に未満児の演技を実践する
19	運動会とキッズダンス	主に以上児の演技を考案する
20	運動会とキッズダンス	主に以上児の演技を発表する
21	考案編 音楽体操	各グループで音楽体操を選曲し振付を考案する
22	実技編 音楽体操	考案した音楽体操の実践と指導準備
23	指導編 音楽体操	考案した音楽体操の指導実践
24	考案編 キッズダンス指導実践	音楽体操から、リズムトレーニング、キッズダンスまでの考案
25	実技編 キッズダンス指導実践	音楽体操から、リズムトレーニング、キッズダンスまでを実践する
26	指導編 キッズダンス指導実践	音楽体操から、リズムトレーニング、キッズダンスまでの指導実践
27	保育発表会とパフォーマンス発表	集団でのパフォーマンス準備
28	保育発表会とパフォーマンス発表	集団でのパフォーマンス準備
29	保育発表会とパフォーマンス発表	集団でのパフォーマンス発表
30	まとめ	後期で学んだ事をレポートにまとめ発表

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	病児実践Ⅰ／こどもの医学Ⅰ		
必修選択	選択必修	(学則表記)	病児実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	改訂版 子どもの保健検定2級・3級 公式テキスト		出版社	日本能率マネジメントセンター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育士・幼稚園教諭となるために正しい知識を修得し、適切な対応力を身に付ける。				
到達目標	子どもの保健検定3級 取得				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	子どもの保健検定3級				
関連科目	病児実践Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	柴田 友文	実務経験		○	
実務内容	小児病棟や病児保育室の看護師として10年以上、他にも児童養護施設での看護として勤務した実務経験を基に、発達段階ごとの特徴や課題について事例を通して教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション・復習	授業のねらい、検定の概要、子どもの保健の復習
2	第1編 第1章 病気のサインの見つけ方	日常の観察と子どもの体温変化について
3	第1編 第1章 病気のサインの見つけ方	子どもの症状を見るポイント①
4	第1編 第1章 病気のサインの見つけ方	子どもの症状を見るポイント②
5	第1編 第2編 からだの観察で気づく疾患	腹部・陰部の観察と疑われる疾患について
6	第1編 第2編 からだの観察で気づく疾患	頭部・頭部の観察を疑われる疾患について
7	第1編 第3章 子どもに見られる感染症と感染症の予防接種	主な感染症と病原体、感染症による登園・登校の禁止について
8	第1編 第3章 子どもに見られる感染症と感染症の予防接種	子どもに多く見られる感染症の特徴、感染症に対する予防接種について
9	第1編 第4章 各症状への対応	発熱時、発疹時の対応について
10	第1編 第4章 各症状への対応	嘔吐時、下痢時、腹痛時の対応について
11	第1編 第4章 各症状への対応	咳嗽時、けいれん時の対応について
12	第1編 第5章 子どもへの救急対応	救急対応の基本と死因の知識、乳幼児の誤飲・窒息について
13	第1編 第5章 子どもへの救急対応	救急の対応が必要となる場合について

14	第1編 第1章～第5章	検定に向けて対策を行う
15	第1編 第1章～第5章	総まとめ
16	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの健康と保健の意義、数字で見る子どもの健康について
17	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの発育と発達について
18	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの体位測定と体格評価指数について
19	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの体重・身長、目・耳の変化、骨・歯の変化について
20	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの呼吸、循環の変化について
21	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの反射について
22	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの疾病と保健（呼吸器、循環器、消化器、神経、筋疾患）について
23	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの疾病と保健（泌尿器、内分泌、血液、アレルギー、悪性腫瘍）について
24	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの精神保健について
25	第2編 第1章 子どもの保健	保育環境の衛生管理について
26	第2編 第1章 子どもの保健	保育環境の安全管理について
27	第2編 第1章 子どもの保健	子どもの健康診査・健康診断について
28	第2編 第2章 子どもの食と栄養	乳児期の食と栄養について
29	第2編 第2章 子どもの食と栄養	離乳期、幼児期の食と栄養について
30	第2編 第1章～第2章	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	病児実践Ⅱ／こどもの医学Ⅱ		
必修選択	選択必修	(学則表記)	病児実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	こうすればうまくいく！医療的配慮が必要なこどもの保育		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療的ケアを受けている子どもや、慢性疾患のある子どもへの配慮や援助方法を身につける。				
到達目標	病気や障害について、保育のなかで気をつけることや、保護者に確認しておくことは何かを考えられる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	病児実践Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	柴田 友文	実務経験	○		
実務内容	小児病棟や病児保育室の看護師として10年以上、他にも児童養護施設での看護として勤務した実務経験を基に、発達段階ごとの特徴や課題について事例を通して教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1部 医療的な配慮の必要な子どもを受け入れるための基礎知識	保育者はどのような情報を把握すればよいのか保育者は保護者や子どもの主治医とどのようにかわればよいのか
2	第1部 医療的な配慮の必要な子どもを受け入れるための基礎知識	病気のある子どもと保護者の心理医療的な配慮が必要な子どもに対して保育者ができること
3	第1部 医療的な配慮の必要な子どもを受け入れるための基礎知識	医療的ケアとは薬の預かりについて
4	第2部 それぞれの病気の知識と保育のときの配慮 アレルギー	1 アトピー性皮膚炎
5	第2部 それぞれの病気の知識と保育のときの配慮 アレルギー	2 食物アレルギー
6	第2部 それぞれの病気の知識と保育のときの配慮 アレルギー	アナフィラキシーとは
7	第2部 それぞれの病気の知識と保育のときの配慮 アレルギー	3 花粉症
8	第2部 それぞれの病気の知識と保育のときの配慮 アレルギー	4 ぜんそくその他のアレルギーと遊びのなかでの配慮
9	神経系の病気	5 てんかん熱性けいれんとてんかんの関連
10	神経系の病気	脳性まひ
11	聴覚障害	7 難聴
12	視覚障害	8 盲
13	視覚障害	9 弱視、白内障、緑内障10 斜視

14	腎臓の病気	11 腎臓の病気
15	ホルモンに関する病気	12 低身長13 思春期早発症
16	ホルモンに関する病気	14 ターナー症候群
17	ホルモンに関する病気	15 糖尿病
18	心臓の病気	16 心臓の病気友だちが入院することになったとき、クラスの子どもにどう伝えるか
19	血液の病気	17 突発性血小板減少性紫斑病（免疫性血小板減少症）18 血友病
20	血液の病気	19 重度の貧血（鉄欠乏性貧血）病棟でのこどもたちの生活
21	血液の病気	HIVに感染した子どもを受け入れることになったら
22	がん	20 白血病在園児が入院することになったら…その子どもにどう対応するか
23	がん	21 脳腫瘍
24	がん	22 神経芽腫
25	その他の病気	23 口唇裂・口蓋裂抑制帯（抑制筒）について
26	その他の病気	24 水頭症25 二分脊椎症
27	その他の病気	26 レックリングハウゼン病27 アルビノ（白皮症）
28	その他の病気	28 ウィリアムズ症候群29 小さく生まれた子ども（低出生体重児）
29	その他の病気	30 ADHD（注意欠如多動症）
30	その他の病気	もしも、クラスメイトが亡くなってしまったときには

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	病児実践Ⅲ／こども救急法		
必修選択	選択必修	(学則表記)	病児実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	0～5歳児ケガと病気の予防・救急まるわかり安心BOOK 保育者が知っておきたい 第2版		出版社	ナツメ社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どもによくあるケガや病気の症状や特徴を学び、緊急時の対応を習得する				
到達目標	緊急時に対する的確な対応ができる 体調が変化しやすい子どもへの対応ができる				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	病児実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	水野 良子	実務経験	○		
実務内容	病院で看護師として6年間、保育園で看護師として3年間、企業保健師として2年間、養護教諭として2年間勤務をした実務経験を基に、病児に対する対応・疾患の理解を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	よくある子どもの体調変化	熱が出た、おう吐した、下痢をした
2	よくある子どもの体調変化	お腹を痛がる、せきが止まらない、頭を痛がる
3	よくある子どもの体調変化	けいれんしている、口やのどを痛がる
4	命にかかわる緊急時の対応	熱中症
5	命にかかわる緊急時の対応	緊急マニュアル、心肺蘇生法
6	命にかかわる緊急時の対応	おぼれた、誤飲した、やけどをした
7	命にかかわる緊急時の対応	頭を打った、骨折した、止血法、包帯の巻き方
8	命にかかわる緊急時の対応	包帯の巻き方(三角巾)、アナフィラキシー
9	第1章 園生活でよくある子どものけが	すり傷・切り傷、鼻血が出た
10	第1章 園生活でよくある子どものけが	口の中をけがした、打撲した、指を挟んだ・つめをけがした
11	第1章 園生活でよくある子どものけが	だつきゅうした・ねんざした、虫に刺された、目・鼻・耳に異物が入った
12	第1章 園生活でよくある子どものけが	かまれた、子ども同士のかみつき、かぶれた
13	第1章 園生活でよくある子どものけが	保育環境の安全対策

14	第1章 園生活でよくある子どものけが	園の災害対策、保護者連絡
15	第2章 園児がかかりやすい子どもの病気	毎日の健康観察、風邪症候群、咽頭炎、扁桃炎
16	第2章 園児がかかりやすい子どもの病気	気管支炎、ぜんそく様気管支炎、肺炎
17	第2章 園児がかかりやすい子どもの病気	急性中耳炎、滲出性中耳炎、外耳炎、副鼻腔炎
18	第2章 園児がかかりやすい子どもの病気	脳炎・脳症、髄膜炎、川崎病
19	第2章 園児がかかりやすい子どもの病気	脂ろう性湿疹、あせも、おむつかぶれ、カンジダ性皮膚炎
20	第2章 園児がかかりやすい子どもの病気	アレルギーについて知っておこう、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、気管支ぜんそく
21	第2章 園児がかかりやすい子どもの病気	アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、じんましん、アレルギーに対応するときのポイント
22	第3章 園で流行しやすい感染症	感染経路と感染対策、消毒液の使い方、学校感染症と予防接種、インフルエンザ
23	第3章 園で流行しやすい感染症	麻疹、風疹、百日ぜき、水痘
24	第3章 園で流行しやすい感染症	咽頭結膜熱、流行性角結膜炎、RSウイルス感染症、クループ症候群
25	第3章 園で流行しやすい感染症	手足口病、伝染性紅斑、突発性発疹、ポツポツ（発しん）がある
26	第3章 園で流行しやすい感染症	伝染性軟属腫、伝染性膿痂疹、アタマジラミ
27	第3章 園で流行しやすい感染症	流行性耳下腺炎、溶連菌感染症、ヘルパンギーナ
28	第3章 園で流行しやすい感染症	腸管出血性大腸菌感染症、食中毒と予防法、感染性胃腸炎
29	第3章 園で流行しやすい感染症	感染症を防ぐ衛生管理
30	第3章 園で流行しやすい感染症	乳幼児突然死症候群（SIDS）の予防法、子どもを虐待から守るために

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	病児実践Ⅳ／ベビーシッター論		
必修選択	選択必修	(学則表記)	病児実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	家庭訪問保育の理論と実際 第3版		出版社	中央法規	

科目の基礎情報②

授業のねらい	ベビーシッターなど居宅訪問型保育者となるために必要な知識と技術を身につける				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅訪問型保育者の社会的背景、経緯、位置づけについて理解する。 ・居宅訪問型保育者の役割について理解する。 ・訪問保育を行ううえで必要となる健康管理や疾病の予防又は対応など基礎知識について理解し、行うことができる。 ・抱っこやオムツ交換、服の着脱など、子どもと接する際に必要となる基本技術を行うことができる。 ・居宅訪問型保育を利用する家庭のニーズを知り、環境整備、保育者としての基礎姿勢、保護者への対応など配慮事項について理解する。 				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	病児実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	實方 徹平	実務経験		○	
実務内容	放課後児童クラブで支援員をして半年間、認可保育所7年半で保育士として7年間、児童館スタッフとして10年間勤務をした実務経験を基に、居宅訪問型保育者として必要な知識と技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	序章 家庭訪問保育とは	授業の流れ、到達目標の説明 家庭訪問保育の体系
2	第1章 居宅訪問型保育の概要①	居宅訪問型保育の社会的背景、経緯、歴史、概要
3	第1章 居宅訪問型保育の概要②	地域子ども子育て支援事業における居宅訪問型保育の展開
4	第2章 乳幼児の生活と遊び	子どもの発達と生活
5	第3章 乳幼児の発達と心理①	乳幼児の発達過程(言葉、他者、探索、移動)、保育者の役割
6	第3章 乳幼児の発達と心理②	乳幼児の発達過程(言葉、他者、探索、移動)、保育者の役割
7	第3章 乳幼児の発達と心理③ 振り返り	乳幼児の発達過程(言葉、他者、探索、移動)、保育者の役割 これまでの振り返りとまとめ
8	第4章 乳幼児の食事と栄養①	乳児期(授乳・離乳の支援、離乳食の意味)、幼児期(幼児期の食事)
9	第4章 乳幼児の食事と栄養②	食物アレルギーなど、健康状態を考慮した食事、乳幼児期の食育
10	第5章 小児保健Ⅰ	乳幼児の健康観察のポイント、衛生管理・消毒について
11	第6章 小児保健Ⅱ①	子どもに多い症状や病気とその対応

12	第6章 小児保健Ⅱ②	事故予防と対応
13	第6章 小児保健Ⅱ③ 振り返り	心肺蘇生法 これまでの振り返りとまとめ
14	第15章 実践演習①	お世話編（睡眠、抱っこ、おんぶ、おむつ替え、着替え）
15	第15章 実践演習②	お世話編（睡眠、抱っこ、おんぶ、おむつ替え、着替え）
16	第7章 居宅訪問型保育の保育内容①	居宅訪問型保育の内容、特徴、配慮事項
17	第7章 居宅訪問型保育の保育内容②	保育の計画に基づき行う保育
18	第8章 居宅訪問型保育における環境整備	居宅訪問型保育に必要な環境の基本
19	第9章 居宅訪問型保育の運営	居宅訪問型保育の業務の流れ、居宅訪問型保育者のマナー
20	第10章 安全の確保とリスクマネジメント	子どもの事故と予防、保育上の留意点、安全チェックリスト
21	第11章 居宅訪問型保育の職業倫理と配慮事項	居宅訪問型保育者としての基本姿勢と職業倫理
22	第12章 居宅訪問型保育における保護者への対応	居宅訪問型保育における保護者支援の必要性
23	振り返り 第16章 実践演習	これまでの振り返りとまとめ 遊び編（居宅での保育における遊び）
24	第13章 子どもの虐待①	子どもの虐待とは、子ども虐待の実態
25	第13章 子どもの虐待②	子どもの虐待の発見と通告
26	第14章 特別に配慮を要する子どもへの対応 （0～2歳児）	気になる行動、対応の仕方、居宅訪問型保育者の役割
27	これまでの振り返り	これまでの振り返りとまとめ
28	第17章 一般家庭訪問保育の業務の流れ	家庭訪問保育の業務の流れ
29	第18章 さまざまな家庭訪問保育	産後ケア、病児・病後児保育、障害児保育、送迎・同行保育、多胎児の保育、学童の保育
30	まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	音楽実践Ⅰ(音楽実践)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	音楽実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	3つのコードで楽しく弾けるピアノ伴奏曲集 保育の先生・学生さんへ現場で使える定番 こどものうた&おまけの解説つき!		出版社	ドレミ楽譜出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	伴奏アレンジ・移調を含めた総合的なピアノ技術を身につける。				
到達目標	和音の機能を理解し、歌の伴奏ができる。 現場の状況に合わせて伴奏をアレンジし、応用できる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	音楽実践Ⅱ・音楽実践Ⅲ・音楽実践Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	新井 令子	実務経験		○	
実務内容	中学校で5年間、高等学校で3年間音楽科専任教諭として勤務をした実務経験を基に、総合的なピアノ技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	コード付け導入	授業の流れ、到達目標、音程と音階
2	ハ長調の主要三和音	ハ長調の主要三和音
3	ハ長調の主要三和音	ハ長調の主要三和音とコードの基本形と転回形
4	ハ長調の主要三和音	ハ長調の主要三和音と属七の和音
5	ハ長調の主要三和音	ハ長調の副三和音
6	ハ長調の主要三和音	ハ長調の副三和音と様々なアレンジ
7	ハ長調の主要三和音	ハ長調の副三和音と様々なアレンジ
8	成果発表①	演奏発表
9	へ長調・ト長調の主要三和音	へ長調・ト長調の主要三和音と転回形
10	へ長調・ト長調の主要三和音	へ長調の主要三和音と属七の和音
11	へ長調・ト長調の副三和音	へ長調・ト長調の副三和音
12	代理和音	副三和音と代理和音
13	借用和音	借用属七の和音

14	借用和音	代理和音と借用和音
15	成果発表②	演奏発表
16	経過和音	経過和音の種類
17	経過和音	経過和音
18	経過和音	経過和音
19	短調のコード	短音階と短調のコード
20	短調のコード	日本音階と短調のコード
21	短調のコード	短調のコード
22	成果発表③	演奏発表
23	コードの移調	コードの移調
24	循環コード	コード進行
25	循環コード	コード進行
26	循環コード	コード進行
27	スキルアップ	コードの色々
28	スキルアップ	Exercise
29	まとめ	これまでの振り返り
30	成果発表④	演奏発表

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	音楽実践Ⅱ(音楽遊び)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	音楽実践Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	アクティブラーニングを取り入れた子どもの発達と音楽表現 幼稚園教諭・保育士養成課程		出版社	学文社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	聴く、歌う、奏でる、動く活動を基に想像性や創造性のある音楽教育へと発展させる知識や技術を身につける。				
到達目標	子どもの発達と音楽表現について理解できる 子どもの発達に応じた音楽教育の知識と技術を身につける 子どもの音楽劇の実践と指導ができる				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	音楽実践Ⅰ・音楽実践Ⅲ・音楽実践Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	新井 令子	実務経験	○		
実務内容	中学校で5年間、高等学校で3年間音楽科専任教諭として勤務をした実務経験を基に、創造性のある音楽教育へと発展させる技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 子どもの発達と表現	授業の流れ 到達目標 子どもの音楽表現活動
2	音楽の要素と音楽表現	手遊びや歌遊びの体験と表現遊び
3	音楽の要素と音楽表現	表現遊びのプログラム作成
4	音楽の要素と音楽表現	表現遊びのプログラム発表
5	子どもの発達と音楽表現	子どもの発達に合った手遊び・歌遊び
6	子どもの発達と音楽表現	発達に合った遊びの展開と指導計画立案と発表
7	聴く活動	子どもの発達と聴く活動
8	聴く活動	聴く活動の援助について
9	聴く活動	聴く活動の実践
10	歌う活動	子どもの発達と歌う活動
11	歌う活動	歌う活動の実践
12	歌う活動	歌う活動の実践

13	前期のまとめ	子どもの音楽劇
14	前期のまとめ	子どもの音楽劇
15	前期のまとめ	子どもの音楽劇
16	奏でる活動	楽器と奏法
17	奏でる活動	リズムの創作とリズム譜の作成
18	奏でる活動	リズムの創作とリズム譜の作成
19	奏でる活動	奏でる活動の実践
20	奏でる活動	奏でる活動の実践
21	つくる活動	子どもの発達とつくる活動 効果音を使った表現遊び
22	つくる活動	効果音を使った表現遊び
23	つくる活動	手作り楽器の制作と合奏
24	つくる活動	子どものための音楽劇鑑賞
25	つくる活動	子どものための音楽劇鑑賞
26	つくる活動	子どものための音楽劇鑑賞
27	つくる活動	子どものための音楽劇鑑賞
28	つくる活動	子どものための音楽劇鑑賞
29	つくる活動	子どものための音楽劇鑑賞
30	表現活動のまとめ	音楽劇の発表

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	音楽実践Ⅲ(リトミック)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	音楽実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	年齢別の基本レッスンから発表会までリトミック百科 うごきのためのリトミック百科ピアノ曲集		出版社	ひかりのくに	

科目の基礎情報②

授業のねらい	リトミックの意義を理解する。リトミックの指導技術を習得する。				
到達目標	音楽が動きで表現できることを理解する。 リトミック活動に必要なピアノ演奏ができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	音楽実践Ⅰ・音楽実践Ⅱ・音楽実践Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	新井 令子	実務経験	○		
実務内容	中学校で5年間、高等学校で3年間音楽科専任教諭として勤務をした実務経験を基に、リトミックの指導技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業内容について、リトミックの概要
2	4月の活動	音の認識と即時反応
3	ピアノ(導入A)	動きのためのピアノ奏
4	5月の活動	音の長さを表現する
5	ピアノ(導入B)	様々なリズムのピアノ奏
6	6月の活動	音楽の始まりと終わりをを感じる
7	ピアノ(導入C)	ストップ・ポーズ・バックのピアノ奏
8	7月の活動	リズムに乗って動く
9	ピアノ(導入D)	飛ぶ・回る・這う動きのピアノ奏
10	8月の活動	異年齢のリトミック活動と表現
11	ピアノ(かけ足)	かけ足のピアノ奏
12	9月の活動	拍と拍子とスウィング
13	ピアノ(歩き)	歩くピアノ奏

14	ピアノ（ゆっくりの動き）	ゆっくりの動きのピアノ奏
15	前期のまとめ	前期の振り返り
16	10月の活動	自己表現の力
17	ピアノ（揺れる動き）	揺れる動きのピアノ奏
18	11月の活動	動きの感覚を育てる
19	ピアノ（跳ぶ動き）	跳ぶ動きのピアノ奏
20	12月の活動	音楽に合わせて動く
21	色々な動きの活動	色々な動きのピアノ奏とピアノの合図
22	色々な動きの活動	色々な動きのピアノ奏とピアノの合図
23	3歳児のリトミック発表	3歳児のリトミックについて
24	4歳児のリトミック発表	4歳児のリトミックについて
25	5歳児のリトミック発表	5歳児のリトミックについて
26	成果発表①	低年齢児のリトミック遊びを考える
27	成果発表②	低年齢児のリトミック遊びを考える
28	成果発表③	4・5歳児のリトミック遊びを考える
29	成果発表④	4・5歳児のリトミック遊びを考える
30	まとめ	一年間のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	音楽実践Ⅳ(こどもと音楽)		
必修選択	選択必修	(学則表記)	音楽実践Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	保育者・教師をめざす人、集まれ～！ みんなピアノ大好き！		出版社	全音楽譜出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	クラシックやポップスなど幅広い音楽のレパートリーを学習し、保育現場に活かせる音楽表現技術を身に付ける。				
到達目標	様々なジャンルの曲を正しく理解し、その曲に合った演奏表現ができる。 ピアノ等でのアンサンブルを通して、各パートの内容を理解し演奏することができる。 コードを理解して曲に合ったアレンジをすることができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	音楽実践Ⅰ・音楽実践Ⅱ・音楽実践Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	新井 令子	実務経験	○		
実務内容	中学校で5年間、高等学校で3年間音楽科専任教諭として勤務をした実務経験を基に、保育現場に活かせる音楽表現技術を指導する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	マーチ(1)	マーチ曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
3	マーチ(2)	マーチ曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
4	マーチ(3)	マーチ曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
5	マーチ(4)	マーチ曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
6	ダンス(1)	ダンス曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
7	ダンス(2)	ダンス曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
8	成果発表①	マーチ・ダンス曲の演奏発表
9	日本の音楽	日本の音楽(わらべうた等)をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
10	世界の音楽(1)	世界の様々な音楽について学ぶ、連弾によるアンサンブルを学習する
11	世界の音楽(2)	世界の様々な音楽について学ぶ、連弾によるアンサンブルを学習する
12	ポップス(1)	ポップス曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する

13	ポップス（2）	ポップス曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
14	ポップス（3）	ポップス曲をコードアレンジやソロ・連弾を通して学習する
15	成果発表②	日本の音楽・世界の音楽・ポップス曲の演奏発表
16	クラシック（1）	クラシック曲について学習する 曲の背景について調べたり、ピアノ以外の作品の鑑賞を行う
17	クラシック（2）	クラシック曲について学習する 曲の背景について調べたり、ピアノ以外の作品の鑑賞を行う
18	クラシック（3）	クラシック曲について学習する 曲の背景について調べたり、ピアノ以外の作品の鑑賞を行う
19	クラシック（4）	クラシック曲について学習する 曲の背景について調べたり、ピアノ以外の作品の鑑賞を行う
20	成果発表③	クラシック曲の演奏発表
21	クラシック（5）	クラシック曲のアンサンブル作品について学習する
22	クラシック（6）	クラシック曲のアンサンブル作品について学習する
23	クラシック（7）	クラシック曲のアンサンブル作品について学習する
24	クラシック（8）	クラシック曲のアンサンブル作品について学習する
25	成果発表④	クラシック曲の演奏発表
26	音楽づくり（1）	様々なジャンルの音楽による即興演奏について学習する
27	音楽づくり（2）	様々なジャンルの音楽による即興演奏について学習する
28	音楽づくり（3）	様々なジャンルの音楽による即興演奏について学習する
29	音楽づくり（4）	様々なジャンルの音楽による即興演奏について学習する
30	一年間のまとめ	成果発表会

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	地域支援実践Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	地域支援実践Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	地域社会において福祉・教育・保育等の領域に関わるボランティア活動に参加することを通して、多様な能力の育成、社会性の涵養ならびに実践による知識技術の習得などを旨とする。				
到達目標	①専門分野を活かして地域社会に貢献する。 ②保育実習の事前・事後の学習に役立てる ③進路選択の一助とする。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	保育科：保育士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐々木 璃子	実務経験	○		
実務内容	保育園で保育士として6年間勤務をした実務経験を基に、多様な能力、社会性ならびに実践による知識技術を教授する。				

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	インターンシップ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	90
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	責任のある立場での職業体験を通じて、働くことの意義や厳しさを体感し、就職活動の幅を広げる。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の現場の体験を通じて、自分自身の適正の確認をする。 ・自分の力を発揮できる就職先を見つける。 				
評価基準	提出物や面接結果(70%)および参加姿勢(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐々木 璃子	実務経験		○	
実務内容	保育園で保育士として6年間勤務をした実務経験を基にインターンシップ期間中の学生を指導・支援する。				

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	キャリアプランニングⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリアプランニングⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	3年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	さんこう就活ガイド 自信がもてる、成長できる 新人保育者が身につけたい社会人基礎スキル		出版社	株式会社日本教育クリエイト 中央法規出版	
¥					
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に参加する目的を理解し、社会人として（現場で）必要なスキル・考え方を習得する。 ・就職活動の流れを知り、すぐに動き出せる準備をする。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現場で問題が起こった際、上司や教員と連携を取り、状況に応じて適切な対応をすることができる。 ・就職活動や実習中に、自分の意見や考えを分かりやすく相手に伝えることができる。 ・就職活動に向けて自己分析を行い、自身の強みを分かりやすく相手に伝えることができる。 				
評価基準	発表点30%、提出物40%、授業態度30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者 				
関連資格					
関連科目	キャリアプランニングⅠ・ホームルームⅢ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	十川 護			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・年間スケジュール
2	試験対策(面接)①	面接の所作等を再確認、面接で多い質問を準備する
3	試験対策(面接)②	模擬面接を実施し、フィードバックから改善点を見つける
4	試験対策(面接)③	模擬面接を実施し、フィードバックから改善点を見つける
5	試験対策(面接)④	模擬面接を実施し、フィードバックから改善点を見つける
6	筆記試験	よく出題される筆記試験の傾向や対策を知る
7	作文・小論文試験	作文と小論文の違い、書き方、原稿用紙の使い方を知る
8	実技試験・オンライン試験について	実技試験の傾向、オンライン試験のポイントなどを学ぶ
9	試験対策(面接)⑤	模擬面接を実施し、フィードバックから改善点を見つける
10	試験対策(面接)⑥	模擬面接を実施し、フィードバックから改善点を見つける
11	試験対策(面接)⑦	模擬面接を実施し、フィードバックから改善点を見つける
12	内定後の対応	内定した後の書類、その後の学校生活の過ごし方等を学ぶ

13	業界講話①	保育業界の話聞くことで、就職後のイメージを膨らませる
14	業界講話②	保育業界の話聞くことで、就職後のイメージを膨らませる
15	振り返り	自身の就職活動を振り返り、課題点を見つけ対策を考える
16	試験対策(筆記試験対策)①	筆記試験対策の小テスト・作文の書き方
17	就職決定後	就職活動報告書の記入方法とお礼状の書き方を学ぶ
18	社会人の言葉使い	敬語の使い方
19	現場理解	第1章 保育に求められる「社会人基礎力」 第2章 仕事をスムーズに進める発信力
20	現場理解	第3章 信頼関係を築く
21	現場理解	第4章 指導や意見の違いを受け入れる
22	現場理解	第5章 組織や周囲の人との関係性を理解する
23	現場理解	第6章 保育の質を高める
24	仕事の進め方①	第7章 仕事の効率を上げる
25	仕事の進め方②	第8章 物事に進んで取り組む
26	仕事の進め方③	第9章 周囲を巻き込んで仕事を前に進める
27	仕事の進め方④	第10章 目的に向けてあきらめずに挑戦し続ける
28	仕事の進め方⑤	第11章 失敗を学びに変える
29	仕事の進め方⑥	第12章 仕事のプロセスを明らかにして準備する
30	未来について	第13章 新しい価値を生み出す 第14章 保育者としてのキャリアデザイン